

二子玉川地区水辺地域づくりワーキング

ニュースレター 第4号 2019. 1. 22

発行：国土交通省京浜河川事務所 世田谷区

平成30年12月22日(土)に、第4回二子玉川地区の水辺地域づくりワーキングを開催しました。

- 地域住民や二子玉川地区で活動されているみなさまを対象に、玉川区民館において、第4回二子玉川地区水辺地域づくりワーキングを開催しました。
- 3回のワーキングを経てご意見の内容が絞り込まれたこと、詳細設計に向けたとりまとめ方針について十分な時間をかけて議論したいことから、第4回ワーキングはまとまった時間を確保できる土曜日(午後)の1回開催で実施しました。
- 今回は、「兵庫橋を残す案と撤去する案」、「堤防沿いの住宅へのプライバシーに配慮した植樹範囲の見直し案」等について、全体模型と抽出模型による整備案をお示しして全体討議を行い、ご意見を出していただきました。
- 第4回水辺地域づくりワーキングには、32名の方にご参加いただきました。

ワーキングのながれ

【第1回】

堤防の高さを確保することを目的にした案をお示しさせて頂き、ご意見を頂きました。

【第2回】

第1回ワーキングのご意見に対する整備案と回答をお示しし、参加者で討議して頂きました。

【第3回】

第2回ワーキングのご意見に対する整備案と回答をお示しし、参加者で討議して頂きました。

【第4回】

全体模型と抽出模型を見ながら、詳細設計に向けて整備方針を討議して頂きました。

【第5回以降】

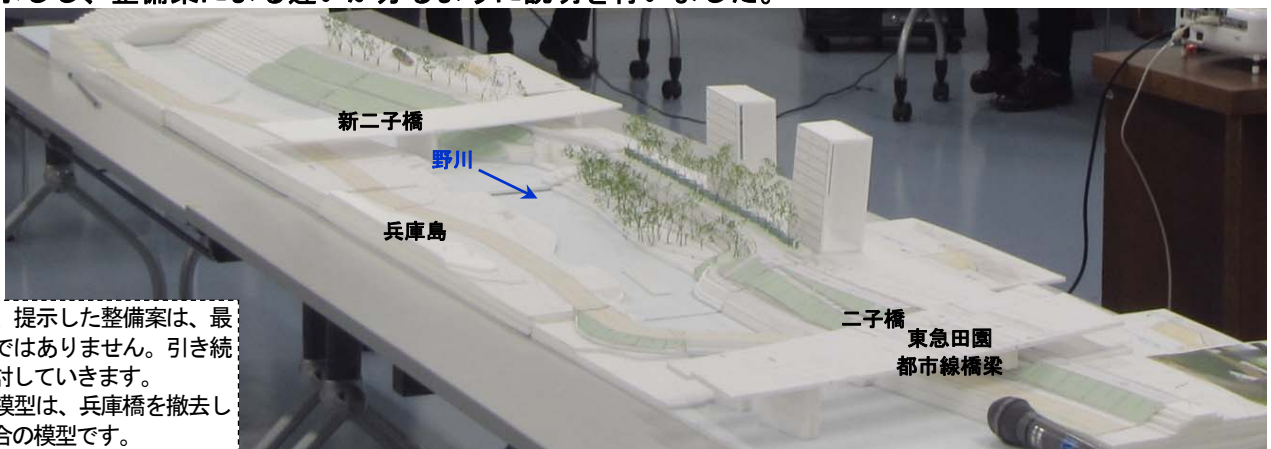
第4回ワーキングのご意見やご提案を踏まえ、方針及び整備案を提案します。

第4回ワーキングの概要

ワーキングは以下のプログラムで進行了ました。

1. 事務局による資料説明と多自然川づくり専門家による模型を使った整備案の説明

これまでのワーキングで頂いた意見に基づく整備案を、説明資料と2つの模型(全体模型[縮尺1/200]と抽出模型[縮尺1/100])で説明を行いました。抽出模型では、兵庫橋を存置した場合と撤去した場合をお示しし、整備案による違いが分かるように説明を行いました。



※今回、提示した整備案は、最終案ではありません。引き続き検討していきます。
※右の模型は、兵庫橋を撤去した場合の模型です。

2. 全体討議 (東京都市大学：末政教授、五艘准教授、多自然川づくり専門家：吉村伸一先生)

参加者全員で模型を囲みながら、整備方針に対してテーマ別に、ご意見やご提案を頂きました。

3. 全体とりまとめ (東京都市大学：末政教授、五艘准教授)

全体討議において頂いたご意見やご提案は、参加者全員で確認し、コーディネーターのお二人にとりまとめて頂きました。

～ご提示した主な対応方針～

ワーキングに提示した主な整備方針を紹介します。

第3回ワーキングの意見をふまえ「兵庫橋を残す案と撤去する案」、「堤防沿い住宅へのプライバシーに配慮した植樹範囲の見直し案」等の修正案を示しました。

A案：兵庫橋を残す場合



(B案より狭い)

植樹可能な範囲



B案：兵庫橋を撤去する場合



(A案より広い)

植樹可能な範囲

(A案より長い)

目隠しが増えた範囲(29m)



～ワーキングの様子～



とりまとめたご意見は、次のページに整理しました。

【今後の予定】

次回のワーキングは、今回頂いたご意見やご提案を踏まえ、方針及び整備案を提案します。開催に当たっては、開催案内にて事前にお知らせします。

【お問い合わせ先】

国土交通省京浜河川事務所 調査課
TEL:045-503-4008
FAX:045-503-4058

◆このニュースレターとワーキングの配布資料は以下のホームページからもご覧いただけます◆

【国土交通省京浜河川事務所】
【世田谷区】

<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00873.html>

<http://www.city.setagaya.lg.jp/tamagawa/13000/13006/d00158442.html>

第4回ワーキングで頂いたご意見は以下の通りです。

2018.12.22 二子玉川地区水辺地域づくりワーキング 全体討議意見

<堤防（河川）整備>

（整備高さに関する議論）

- 堤防が高ければ高い方がいいことは理解するが、低いところが一部でもあると意味がないのではないのか。堤防嵩上げによっては隣接マンションの価値にも関わる。全部暫定堤防でよいのでは。下流は暫定で整備されている。
→基本的には地盤高の低い下流側に流れていくので、完成堤防の方が隣接物件の安全性は高まる。橋の下も完成堤防レベルまで高くする工法もある（荒川など）。予算確保上も暫定堤防だと問題があるかもしれない。
- 一回目からの議論があるので理解度に違いがあるが、原則論と構造上の安全性が高まることは理解している。しかし、下流が暫定になっている状況で上流側を完成堤防にすることの必要性の説明を議論すべきではないか。
- 模型ができたので高さを実感できた。下流の完成堤防整備と併せて当該区間も完成堤防にするのもいいのでは（段階整備）。
→安全と景観のどちらかを選択するということになるのではないか。
- 多摩川には暫定以下の整備レベルの箇所はあるのか。
→ある。完成堤防として整備したのは80%程度。
- コヤマドライビングスクールの箇所と同じレベルで考えているのか。
→その通り。
- HWLより低いところでは道路ギリギリまで水が来た。町の安全が一番大切ではないか。できるところは完成堤防にすべきではないか。
- できるところからやってもらった方が安心して生活できる。越水すると内側から壊れることも考えられるので、完成堤防の方がよいと思う。
- 堤防決壊に伴うシミュレーションが欲しい。
- 堤内排水の検討が必要ではないか。

(断面形状に関する議論)

- 5.1mの連続の壁は危険ではないか。恐怖感がある。他の手立てはないか。
→原則は土堤だが、森を守るために実施。
- 二子橋の橋脚によって通水断面積が狭くなっている。
→このことを考慮して計算済みで、それも含めて計画高水位が決まっている。
- 強風の際に堤防上の高い樹木が堤防に悪影響を与えないか。
→適切な剪定等で管理する。

(兵庫橋の取り扱い)

- 緊急避難路と兵庫橋の関連を議論すべき。
- 江戸時代の休憩所、料亭からの歴史があると思う。川には人が集まる。二子玉川らしさを残してもらいたい。
- 情緒的に残すよりも、代替の橋ができるのであるから撤去してもらいたい。
- あったほうが便利だから残してほしい。
- 動線・環境にかかわる問題。利便性、合理性のみで考えることではない。安全性との妥協点をさぐるべきではないか。残せるものなら残したい。
- できたら残したい。残す場合には土手から上って下りるのか？
→(模型にて動線を説明)。残す場合は橋台の改築が必要となる。車いすでは土手を上り下りできない。
- 兵庫橋の方にスロープができると利便性が高まる人もいる。
- 広域避難場所への移動を考えると、兵庫橋を残すよりも新しい橋を使った方が便利。

<動線（プライバシー）>

- 一般に開放しない。
- 森を残したかった理由は、生物の宝庫。管理用に使うのは問題ない。一般人を通すと森から公園になってしまう。動線としては裏側の区道を通せばよいのでは。鳥や動物のために、人間は通さない方がいい。
- 散歩する人からすると、迂回路は車両等で安全性が低い。通さないというのは地域エゴ的な考え方ではないか。堤防はみんなのもの。自由に通れることも考えるべきでは。
- 自由に通行させると、プライバシー、セキュリティの問題がある。（管理用道路に）樹木を植えると真っ暗な人の通らない道路ができるのが心配。森はサンクチュアリにして遠くから見守る形できないのか。人は通してほしくない。
- 森はサンクチュアリにして残すべき。安全上の問題を配慮するとすれば、堤防上を通さないという事は少し行き過ぎではとも思う。
→堤防を通さなくても回遊できるようにはなっている。河川管理者としては治水以外に環境にも配慮。川に期待するのは散策である（1位、6割程度）というアンケート結果がでている。管理者としては多くの方に使ってもらうことを考えることになる。
- 兵庫島の中を散策することを抜きにして、堤防上を歩きたいという解釈は課題では。
- 堤防に道路を造らないことを要望したい（プライバシー）。夏の夜はうるさい。夜は通さないとか。これ以上うるさくならないようにしてほしい。マンション周囲には5本の道路が並行してある。無計画では。
→堤防天端の道路は管理用道路。河川敷も同じ。一般車両は通さない。歩行者は通れる。
- 人が通らなければ街灯は要らないかもしれないが、現状とても暗いので街灯が必要では。防犯面も重視すべきでは。人が通らなくても、違法駐輪などを減らすために街灯をつけるべきでは。
→街灯を検討することも可能。違法駐輪関係は区の業務範囲かもしれない。
- 堤防上を通れるようにすれば違法駐輪は増えるかもしれない。
- 防犯上の問題が心配。

<環境>

- 川崎側の風が強い地域。樹木によっては虫がくる。木の種類を考えてほしい。手入れは今後どうなるのか。木はあった方がいいけれど、そこで育てているわけではないので鳥を増やすことについてはあまり心配しなくていいと専門家に云われた。維持管理ができない現状からすると、兵庫島公園のほうをきっちりしてもらって、（堤防側は）維持管理できる範囲でいい。
→維持管理は世田谷区と調整。